

長崎県沿岸における *Vibrio vulnificus* の分布と環境因子

山崎省吾^{1), 2)†} 右田雄二¹⁾ 中村まき子¹⁾ 浦 伸孝¹⁾ 工藤由起子³⁾
 三澤尚明^{2), 4)} 岡本嘉六^{2), 5)} 高瀬公三^{2), 5)}

- 1) 長崎県環境保健研究センター (〒856-0026 大村市池田2-1306-11)
- 2) 山口大学大学院連合獣医学研究科 (〒753-8515 山口市吉田1677-1)
- 3) 国立医薬品食品衛生研究所 (〒158-8501 世田谷区上用賀1-18-1)
- 4) 宮崎大学農学部 (〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1)
- 5) 鹿児島大学農学部 (〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24)

(2008年8月27日受付・2009年4月23日受理)

要 約

長崎県沿岸の漁港7地点(有明海5地点, 橘湾2地点)における海水中の *Vibrio vulnificus* (*V. vulnificus*) 菌数を Most probable number (MPN)-PCR法を用いて測定し, その菌数の増減に及ぼす各種環境因子(水温, 塩分濃度, DO, COD, 総窒素量, 総リン量, クロロフィルa量)の影響を海域性および季節性を加えながら統計学的に解析し, 検討した。*V. vulnificus* 菌数は, 有明海では6月から菌数上昇傾向を示し7月に最高値 ($4.50 \times 10^4 \pm 17.1$ MPN/100ml) となり, 橘湾では8月に最高値を示した。両海域での *V. vulnificus* 菌数は, 水温 ($r_s = 0.711$) および塩分濃度 ($r_s = -0.712$) との間に高い相関を認めた。またDO, 総窒素量およびクロロフィルa量と *V. vulnificus* 菌数の間には, 単回帰分析 ($R^2 > 0.1$) で低度の寄与率が認められた。*V. vulnificus* は, 有明海産魚介類からの分離率が橘湾のそれらよりも高く, 二枚貝で90%および魚類で94.1%を示し, その菌数の最高値は 10^6 MPN/100gであった。
 ——キーワード: 有明海, 分布, 環境因子, MPN値, *Vibrio vulnificus*.

----- 日獣会誌 62, 649~655 (2009)

† 連絡責任者: 山崎省吾 (長崎県環境保健研究センター)

〒856-0026 大村市池田2-1306-11

☎0957-48-7560 FAX 0957-48-7570

E-mail: syamasaki@pref.nagasaki.lg.jp